

## ロータリー月例報告書 vol.12

留学先：レッジョエミリア音楽院（イタリア）

六月に入り、本格的な夏を迎えると共に蝉の声が盛んに聞こえる時期となりました。レッジョエミリアでは最高気温が三十五度越えの日も少なくなく（記入時七月中旬現在）、フィレンツェなど他の地域に比べると少し落ち着いた気温ではあるものの、連日猛暑日が続いています。

さて、私事の報告ではありますが、六月下旬にビザを新規に取得することができ、お陰様で二十八日に無事イタリアへ再入国することができました。音楽院での勉強を再開するにあたり不安に感じていたことは多く、音楽についても言語についても感覚を取り戻すのに時間がかかるのではと思っていましたが、温かく迎えてくれた同期たちのお陰で安心して取り組むことができています。

今回戻ってから参加することができた試験は、一つのオペラの一役を大まかに歌えるようにする Letteratura（今回はチマローザ作曲の秘密の結婚というオペラに他の学生と一緒に取り組んでいました）、舞台演出（集大成として、「シュフルリ氏はご在宅」というコメディタッチな一時間弱のオペレッタに合唱で参加しました）、室内歌曲（自分自身の試験は秋に持ち越しして今回は重唱の賛助のみ）の三つです。日本でオンラインで受けることができたものもありましたが、残念ながら受けることができなかった試験もいくつかあります。夏の間に準備を進め、九月、十月の秋頃の試験時期に改めて試験申し込みをと考えており、気持ちを新たに組み始めたいと思います。



レッジョエミリアの路地にて  
何気ない景色から帰ったことを実感しています

怒涛の二週間を終えて現在無事に夏休みに入り、先日プライベートのレッスンを受けに早速一度リヴォルノに行ってきました。イタリアで生活することについて、また卒業後の展望について少し悩むこともあり、また手続きをはじめとして困難を感じることも多いですが、歌うことが楽しくてイタリアに来たいと思った当初の自分や気持ちを思い出させてくれる貴重な時間でした。

昨年の六月に留学生活を始め、日本で過ごす期間があったものの気づけば十二回の報告を経て一年が経とうとしています。長いようで本当にあっという間の時間の中で、これからもいろんな経験をして沢山吸収できるようにありたいと再認識する日々です。

末筆となりますが、いつも皆様からの温かいご支援をいただきまして本当にありがとうございます。今後とも変わらぬお付き合いのほど、どうぞよろしく願いいたします。



学校の中庭にて、舞台演出の授業の一環で行った  
オペレッタ、演奏会後のカーテンコール